

2024年度バイオメディカルサイエンス専攻シラバス

授業科目名	薬物治療学特論		
コーディネータ	矢野 育子		
授業形式	講義	配当年次	修士1年次
単位数	2単位	選択・必修	選択必修
曜日・時限	前期 火曜日 17:30～19:40 開講形態区分:4 遠隔のみ		
担当分野名	薬剤学、薬理学、橋渡し科学		
担当教員名	矢野育子、古屋敷智之、大村友博、山本和宏、北廣優実、糸原光太郎、木村文司、宇田篤史、丹田雅明、北川裕之、坂根稔康、中村 任、真田 昌爾、榎本博雄		
授業のテーマ	薬物治療における分子メカニズムを理解する。 薬物動態学の基本を修得し、医薬品の適正使用に関連づける能力を育成する。 臨床研究や臨床試験を実施・支援する上で配慮すべき点について学習する。		
授業の到達目標	薬物治療における分子メカニズムについて理解できるようになる。 薬物動態の基本を修得し、医薬品適正使用上の注意点が説明できるようになる。 臨床研究や臨床試験を実施・支援する上で配慮すべき点について述べるができる。		
授業の概要と計画	<p>前期(5月～8月)の火曜日17:30～19:40に、開講形態区分:4 遠隔のみで行う。 ただし、授業日程を変更する必要がある場合には、随時、BEEF+で通知する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5/7(火)「臨床薬理学総論/確認テスト」担当:矢野 5/14(火)「薬理学総論/確認テスト」担当:古屋敷 5/21(火)「小胞体ストレスを起因とする疾患と治療戦略:パーキンソン病を中心に/確認テスト」担当:大村 5/28(火)「脳への薬物送達:いかにしてBBBを克服するか/確認テスト」担当:坂根 6/4(火)「個別化投与設計を目的とした薬物速度論研究/確認テスト」担当:糸原 6/11(火)「糖鎖合成異常による疾患と治療/確認テスト」担当:北川 6/18(火)「抗がん薬の有効性・安全性におけるゲノム薬理学的研究/確認テスト」担当:山本 6/25(火)「がん化学療法時の薬物体内動態とバイオメタル情報について/確認テスト」担当:中村 7/2(火)「高齢者薬物療法とポリファーマシーの問題」担当:木村 7/9(火)「診療と研究の違い/臨床研究のイロハ/確認テスト」担当:真田 7/16(火)「抗菌薬のPK/PD理論と適正使用に向けた治療戦略」担当:宇田 7/23(火)「がん薬物療法時の薬物相互作用への対応」担当:丹田 7/30(火)「医薬品開発プロセスと治験をサポートするCRC/確認テスト」担当:榎本 8/6(火)「妊娠時における薬物治療と産婦人科領域における漢方処方活用の活用/確認テスト」担当:北廣 		
成績評価方法	授業への参加度60%、各授業の確認テスト40%で評価する。 授業への参加度(授業中の発言等)や確認テストの内容をもって評価する。		
成績評価基準	薬物治療における分子メカニズムについて修得できているか。 薬物動態の基本を修得し、医薬品適正使用上の注意点が説明できているか。 臨床研究や臨床試験を行う上での配慮すべき点について理解できているか。		
履修上の注意 (関連科目情報)	講義資料の配付、学生への連絡、レポート回収は、BEEF+にて行う。 薬理学や臨床薬理学などにかかる著書・論文等に目を通しておくこと。		
事前・事後学修	<p>事前学修:各回の授業で取り扱う項目について、関係する書物・論文等を読んだ上で、疑問点をまとめておくこと。 事後学修:各回の授業で取り扱った事項について、関係する書物・論文等を再読し、授業で学んだことについてまとめること。</p> <p>本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。</p>		
学生へのメッセージ	不明な部分がある場合は、躊躇せずに質問することを心がけること。 積極的態で、何事にも興味を持ち授業に望むこと。		
オフィスアワー・連絡先	<p>随時受け付けます。ただし、会議や出張で不在にすることもあるため、事前に予約すること。</p> <p>【研究室】附属病院外来診療棟地下1階 薬剤部 教授室 【連絡先】薬剤部秘書室(メール:hisyo@med.kobe-u.ac.jp)にてアポイントを取ってください。</p>		
今年度の工夫	薬物治療学の基礎となる臨床薬理学総論、薬理学総論を行います。		
教科書	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
参考書・参考資料等	講義内容に合わせて、必要ある場合は、別途お知らせします。		
授業における使用言語	日本語		
キーワード	臨床薬理、薬物動態、薬理作用、副作用、治験、臨床研究		